集落活動センター であいの里蜷川開所式

看板をかける関係者ら

12月23日(土)、集落活動センター「であいの里蜷川」の開所式が行われました。

前身となるであいの里蜷川は、よさこい高知国体の民泊の受け入れの際に、使用されていなかった廃校を利用したのがきっかけで活動が始まり、今年で15周年になります。

平成28年4月1日に地域活動の拠点として、県内で30カ所目の集落活動センターとなり、これまで地域の有志で宿泊・交流体験や、地域住民の食材を使用したお菓子の製作、地元の交流の場としてのモーニングの提供などを行い、集落活動の維持・活性化に取り組んできました。

尾﨑正直県知事は、「高知県は中山間地域が外に向かって出て行き、発信していくことが大事なポイントとなる。若い人たちの移住に繋がっていけば」と祝辞を贈りました。

蜷川地区の下村正直前区長は、「蜷川地区は人口の割合の多くを65歳以上が占めているから、開き直ってお年寄りががんばるしかない。全国からも海外からも蜷川に来てもらえるようになれば」と抱負を語りました。

その後、児童らによる書道パフォーマンスが行われ、校舎に力強い文字が掲げられました。

パフォーマンス作品と児童ら

ぼうさい甲子園で佐賀中学校が受賞

防災教育に関する先進的な活動を表彰する「ぼうさい甲子園」が1月7日(日)、兵庫県公館で開催され、佐賀中学校が受賞しました。

表彰の対象は、平成28年10月1日～平成30年3月31日までの活動で、佐賀中学校は中学生の部門から奨励賞に選出されました。また10日(水)には、教育長を訪問し受賞の報告を行いました。

これまで同中学校は、地域との防災訓練やメキシコの中学生らとの合同避難訓練など、防災を通じて地域内外とのつながりを作ってきました。

受賞式に出席してきた佐賀中学校3年生の明神右京さんと濱口紗良さんは、「地域とのつながりも強くなり、これまで活動してきてよかった」と喜びを口にしました。

また、坂本勝教育長は報告を受け、「地道に取り組んできたことが認められた。胸を張って今後も取り組んでほしい」とエールを送りました。

表彰状を手にする生徒ら

2017年度 幡多地区人権フェスティバル

12月7日(木)、佐賀小学校・佐賀中学校にて、2017年度幡多地区人権フェスティバルが高知県・幡多地区・黒潮町の人権教育研究協議会の主催で開催されました。

フェスティバルでは、佐賀小学校および中学校にて人権教育公開授業が行われ、生徒らはそれぞれのテーマに合わせて意見交換や発表などを行い、人権について考えました。

公開授業の様子

公開授業の後は、山口県人権啓発センターの川口泰司事務局長を講師に迎え、『「寝た子」はネットで起こされる！～部落差別は、今～』と題して講演が行われました。

川口さんは、今起こってきているインターネットを悪用した部落差別の深刻化について話し、「差別は無知による偏見から起こる。当事者ではない人が意識することが大事」と差別に向き合うことの大切さについて語りました。

講師の川口泰司さん